

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年 7月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社 陽春		
事業所名	グループホーム 陽春		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府枚方市東田宮1丁目16-3		
自己評価作成日	平成22年5月10日	評価結果市町村受理日	平成22年8月2日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成22年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数なので、一人ひとりの健康状態や精神面での変化にも気付き 利用者とのコミュニケーションもうまくとれています 庭先に次々に咲く花等を楽しみながら リビングでは笑い声がたえないホームです

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設以来職員の入れ替わりがほとんどなく、利用者との関係が確立されている。職員は利用者一人ひとりのコミュニケーションを大切に、個々の心身の状態を細やかに把握し、現状に基づいた介護計画の下で、個別支援に努めている。散歩・買い物など近隣への外出を頻会に行い、力量に応じてできるかぎり家事や作業への参加を促すなど、日常生活の中での心身の活性化に取り組んでいる。3食とも献立作りから買い物・調理まで手作りで調理し、職員も同じテーブルで同じものを食べるなど、家庭的な雰囲気大切に、利用者はゆったりとその人らしい毎日を過ごしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>玄関に理念を掲示することにより、職員への周知はもちろん、外部の人へも公開している 入職時には理念について説明している</p>	<p>地域密着型サービスとしての役割を理解し全職員で見直しを行い、理念を作り上げている。職員の離職が少なく理念は浸透している。新入職者に対しては、入職時と期間見て理念について具体的に説明し浸透を図っている。</p>		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>散歩や買い物に出かけ近隣の人達と挨拶を交わしたり、ゴミの出し方等話し合っている 自治会にも加入している</p>	<p>近隣住民とは、自治会に加入し回覧板の受け渡しで日常的な交流を持っている。近隣の学校とは、行事を通じて交流を持つようにしている。地域のコミュニティーよりの依頼で「子供110番」に参加しており、地域への貢献も行っている。学校の用務員の方とは、顔見知りです。日常的に学校との交流が持てるように取り組んでいる。買物や散歩での近隣の人と挨拶を交わしたり、ゴミ出しなどで話をしている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>人材育成の貢献として実習生（ヘルパー2級）の受け入れは実施している 地域の人々にも、もっと積極的に話し合っていきたい</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一回開催し地域の催しの案内や利用者の近況等話し合っサービスの上につなげている外部評価の公表も行っている</p>	<p>偶数月に運営推進会議を開催している。地域包括支援センター職員・自治会副会長・民生委員・家族代表の方が出席し、状況報告を行い地域の情報提供を受けたり、家族よりの意見や要望を聴取し意見交換・情報交換が行われている。会議では、外部評価の評価結果の報告も行われ、忌憚のない意見が出されている。災害時の協力体制についても話し合いがなされており、地域の避難訓練にも参加している。地域で暮らす認知症の方の話もあり、地域へホームとして貢献できるように考えている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市主催の会合等は必ず出席し、市の担当者にも色々相談し助言を頂いている 介護相談員（1名）の受け入れも行っている</p>	<p>市が主催する会議には、必ず参加している。4ヶ月に1回地域包括支援センターが主催するグループホーム連絡会に参加し困難事例検討や情報交換を行い、グループホームが抱える問題を把握してもらい協働の姿勢を持っている。地域の医療福祉関係向けの勉強会への参加案内もあり、参加し積極的に情報共有と問題解決に向けた取り組みがもてるようにしている。介護相談員の訪問も毎月受け入れており、利用者一人ひとりの意見や要望を聴取してもらい、課題解決に向けた取り組みに意見を活かしている。集団指導には、参加し積極的に課題解決に向けた取り組みを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を全職員が理解しており玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアを実践している	身体拘束に関してのマニュアルを作成し、職員へは普段のケアの実践の中で身体拘束について常に話し合いを行い拘束による弊害を理解している。	話し合われた内容を記録として残し周知を図ると共に、年間計画に盛り込んで定期的に研修を行い、より一層の浸透が図れるような取り組みを期待する。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所内では虐待が見過ごされない様注意している 高齢者虐待防止関連法について勉強して、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については勉強会を行い理解している 必要な人にはそれらを活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約の時には丁寧に説明し理解して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れ利用者の相談相手になって頂いている「ご意見箱」を玄関に設置している	家族来訪時には、口頭で状況報告を行い、また、状況に変化があれば随時電話で連絡をしている。意見箱は設置しているが、現在まであまり入らないため、家族来訪時に積極的に声かけを行い、意見や要望を聴取する機会として捉え、会話の中から聞き取るようにしている。出された意見や要望は会議の席で話し合い、職員間で共有するためにホワイトボードに明示し、運営やサービスの質向上に活かすように取り組んでいる。改善・反映された意見や要望は、家族来訪時に報告を行っている。	要望・意見がサービスや運営に活かされた経過や家族への連絡・報告などは、一連の経過として記録に残し、データとして活用されることが望まれる。また、外部評価時に実施されるアンケートなどを利用し、利用者・家族の満足度を把握し、職員間で検討し運営に反映させる取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	日頃から意見や要望を聞いて より働きやすい環境になるよう努力している	日常の勤務の中で管理者は、従業員が意見や提案を言い易い雰囲気作りを行い、積極的に把握に努めている。出された意見や要望は、日々のミーティングの中で話し合い、運営に反映させていくことが出来るように取組んでいる。職員の定着率が極めて高く、管理者と職員・職員間のコミュニケーションの良好さが推察され、利用者との馴染みの関係の継続につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日現場に来ており勤務状況を把握しながら向上心を持って働けるよう心がけている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の為に休暇の要請には快く応じている 事業所内では介護技術の相互研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センター主催の交流会で地域の同業者と意見交換しながらサービスの向上を目指している 相互訪問も行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談で本人の心身の状態や困っている事をよく聴き 安心を確保するための関係づくりに努めている 体験入所も行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談でこれまでの生活歴や病歴等詳しく聞き家族の願いや思いをくみとり、信頼関係を築くよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談でどのような支援が必要か話し合い、他のサービスの利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は利用者の不安や喜び等暮らしの中で分かち合い支えあっている		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の様子や出来事をきめ細かく家族に伝え、協力して本人を支援している		
20	8	○馴染みの人や場所と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これ迄本人を支えてくれた馴染みの人や、孫、ひ孫も遊びに来て、他の利用者も一緒に楽しんでいる	利用者の身内の方を中心に顔馴染みの関係の方の来訪があり、交流が継続できるように支援している。日常の利用者の何気ない話の中から馴染みの場所を聞き取り、訪問できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、すべての職員が把握し、調整役となって孤立しないよう気を配っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしなが、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は該当者はないが契約終了後も関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないようにしたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数なので、一人ひとりの思いや希望は充分把握出来ている 「墓参りに行きたい」等、それぞれの思いを家族に伝え検討してもらっている	入居前に本人・家族より思いや意向を聴取しアセスメント用紙に記載している。入居後の会話の中でも把握できるように職員の意識付けをすると共に、再アセスメントやモニタリングの機会に思いや意向を確認するように取組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所時に、本人や家族、特にキーパーソンの方等から詳しく聴いている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解して、今何をしたいのか、何が出来なのか、心身状態の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や家族と話し合い意見交換しながら作成し、モニタリングを行っている	入居時のアセスメントで利用者・家族の意向・要望を把握し、介護計画に反映している。2ヶ月に1回ケア会議を開き、職員全員で利用者一人ひとりの状態を確認し、介護計画の見直しの必要性を検討している。状態の変化や家族の希望がある時は随時見直しを行い、定期的には6ヶ月に1回再アセスメント・モニタリングで評価し見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに職員の気づきや本人の言葉等記録して情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時は職員が頻繁に病院を訪ね情報交換している 好みの服を買いに外出支援する等柔軟に対応している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員も運営推進会議に出席して、協力しながら支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療で2週間に一度訪問診療を受けている 家族の要望で以前からのかかりつけ医にも受診している	入居時に利用者・家族に希望のかかりつけ医を確認している。2週間に1回内科医の往診があり、その他は個別に通院し受診している。受診には職員が同行し、情報提供を行ない、連携を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	在宅医療で来てくれている看護師に電話で相談しながら日常の健康管理に務めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して過ごせるよう、病院関係者と情報交換したり、早期退院に向けソーシャルワーカーと相談している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については家族・医師と充分話し合いを行い、全員で方針を共有している	医療が必要になれば、対応が困難である旨を契約時に説明し、同意を得ているが、ホームとしての方針の明文化には至っていない。重度化された場合は、家族・主治医・職員とでその都度話し合いを行い、方針を統一し対応している。	重度化・終末期に対する方針を明文化し、家族の同意を得、職員の理解を共有しておくことが望ましい。マニュアルを作成すると共に、研修会を行い、職員が不安なく対応できるような取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の大半は応急手当の訓練を受けているが、すべての職員が定期的な受けるといふまでには至っていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全計画を作成し、年2回避難消火訓練を行っている 各人の移動能力を確認して、いざという時の誘導方法を話し合っている	消防署の協力の下年に2回、昼夜想定で利用者も参加して、避難訓練を行なっている。運営推進会議で地域との協力体制について話し合うと共に、地域の消防訓練にも参加し、連携に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、言葉かけには全職員気を配っている 誇りを傷つけないように接して、個人情報についても秘密保持を守っている	サービス提供マニュアルを作成し、羞恥心への配慮・個人情報の保護などについて、職員の周知を図っている。接遇については「自己点検チェック表」を用いて自己評価を行い、自尊心の尊重に努めている。日々の業務の中での気づきについては、職員間で話し合い改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた話の仕方・説明を行っている 入浴やシャワー浴は本人が決めたり、自分で納得した暮らしを支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の状態を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にして、パズルや歌、家事の手伝い、散歩等、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪も資格のある職員が各人の好みに応じてカットしている 自室に化粧品を置いている人もある		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの誕生日には赤飯で祝ったり季節感を取り入れた献立を心がけている 職員も一緒に食べながら見守りしている	三食とも献立作りから買物・調理を手作りで行っている。利用者は下ごしらえ・配膳・後片付けなどできる範囲で参加して行っている。献立は利用者の希望を基本に季節感を取り入れると共に、体重の増減を見ながらカロリー管理を考慮して管理者が立てている。同じ食卓で職員も同じものを一緒に食べ、和やかな家庭的な食事風景の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、把握している カロリーの過不足にも気を配っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや洗面所への誘導等それぞれの力量に応じた口腔ケアを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの力に応じてポータブルトイレや尿器を利用したり、出来るだけおむつの使用を減らすよう支援している様子を見てトイレ誘導も行っている	利用者の排泄パターンや体調を考え、ポータブルトイレ・尿器の使用など一人一人に適した排泄支援を行い、なるべくオムツを使用しない排泄の自立を目指して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の及ぼす影響を良く理解しているので出来るだけ運動することや水分を多く摂るよう全員で取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応の入浴日は決めているが一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟に対応している	2日に1回、昼間の入浴を基本にしているが、利用者の希望や体調に応じて柔軟に入浴支援している。身体状況によっては2人介助で安全性を確保するとともに、羞恥心への配慮を職員間で周知している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動して夜間は安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルして職員が内容を把握している服薬時は見守り確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野でお願い出来るような仕事を頼んで「ありがとう」と感謝の言葉を伝えている散歩や歌等一緒に楽しんでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりに合わせて近くでの散歩や、近所のコンビニ等へ買物に行っている</p> <p>外出が難しい人は敷地内で外気に触れ気分転換が出来るよう支援している</p>	<p>一人ひとりの状況に応じて、徒歩や車椅子で、近隣への散歩やスーパー・コンビニでの買物に日常的に外出している。</p> <p>天候・体調の都合で外出が困難な場合は、庭で外気浴したりお茶を飲むなどして気分転換を図っている。少人数で車で外出したり、個別に外出支援するなど、希望に応じて外出の機会を増やせるように努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣い程度のお金は、それぞれ財布に持っていて、買い物に行っても、自分で支払うよう見守っている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族への電話は職員が段取りして本人に出してもらっている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>明るく広いリビングがあり普通家庭のように台所で洗い物している様子や話している声が聞こえる空間づくりになっている</p>	<p>全員でくつろいだり、作業ができる大きなテーブルが中央に置かれ、台所の調理の音や香りが感じられる共有空間である。花や季節感のある飾り物を配し、家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関横のスペースに小さなテーブルと椅子を置いたり、リビングの壁側にソファをおいて思い思いに過ごせるよう工夫している マッサージチェアも利用している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に使い慣れたタンスやコタツ等持ち込んだり、家族の写真や置物を飾る等工夫している</p>	<p>家族の協力を得て、使い慣れた馴染みの家具や道具を持ち込み、思い出の品や写真を飾り、その人らしいゆったりと過ごせる居室作りに努めている。布団とベッドの選択など、生活歴や生活習慣を大切に個別支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室の入り口等に手すりを設けることで、安全で自立した生活が送れるよう工夫している</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目						
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○		①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66		職員は生き活きと働けている	○		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	